

☆尼崎寺町周辺散策と新尼崎城巡り☆

2023・2・7 企画委員会

江戸時代の城下町の風情を今に伝える寺町の散策と 2019 年 3 月にオープンした日本で最も新しい城の見学を楽しみましょう。

日 時 2023 年 2 月 24 日（金）10:00 集合（全員集合）

前日 17:00 気象庁発表の天気予報で兵庫県南部午前・午後の降水確率 50%以上で中止。

集合場所 阪神尼崎駅西側改札口出た所（場所：大阪から来て進行方向左側）

コース ・午前 10 時～12 時 20 分

各班 2 グループに分け、8 グループにする。（当日集合時に企画班幹事が指示）

ガイドに従って寺町、尼信会館、貯金箱博物館を見学。（貯金箱博物館は班単位）

・昼食 12 時 30 分～13 時 15 分：新尼崎城芝生広場に全員集合。

・午後 13 時 20 分～15 時 35 分：班単位で新尼崎城と歴史博物館の見学。

1・2 班：新尼崎城→歴史博物館 3・4 班：歴史博物館→新尼崎城

<注意事項>

狭い道に寺が建て混んでいるので、信号のない十字路は車に充分注意して下さい。

持参するもの：弁当、飲料、雨具、マスク



尼崎城

訪問先概要

- ・ **寺町**：尼崎の代表的歴史空間「寺町」は11か寺が軒を連ね、城下町であったイメージを伝えている。

16世紀後半、豊臣秀吉によって全国統一がなされ、領主たちの権力を強化する施策の一つとして城下町が建設された。城下町の建設は支配体制を固めることが目的で、寺院も網の目のように組み込まれ、従来町場の各所に散在していた寺院を1か所に集め、城下町の要所に分散して配置された。なぜこのように寺院を配置された目的の一つは軍事である。城下町防備が最も弱いと思われる地域を固めるため利用され、大きな建物と広い境内がいざという時の出城の役割を担った。もう一つの目的は宗教政策。寺院が集中することは寺院を統括しやすいからで、この背景は戦国時代の一向一揆に代表されるような、寺院勢力の対立という経験があったためである。寺院の区画はほぼ変わりなく、約400年、幾多の災害を乗り越え、先人達が守り続けてきた。時代と共に全国の寺院が様変わりしていく中で尼崎の寺町は市街地の中心でありながら、今日に至っているのは極めて貴重な存在と言える。また、由緒ある寺院も多く、国、県、市指定の重要文化財が集中している。1997年に寺町が「阪神、淡路の百名所」に指定された。

- ・ **尼信会館**：尼崎城の白壁をイメージした尼信会館は歴史的景観保存地域である寺町周辺とも調和のとれた建物。2階常設展示室には、尼崎城の復元模型を囲むように、絵巻物や大旗、国の重要文化財である太刀、市指定文化財の甲冑や槍など歴史的に貴重な資料を展示している。古くから京と西国を中継する港湾都市として栄えた尼崎藩活躍の様子を絵図や資料と共にみると理解し易い。

- ・ **尼崎市立歴史博物館**：建物は1938(昭和13)年に建てられた尼崎市立高等女学校をリニューアルした。

2階の常設展示室は原始、古代、～近・現在までの尼崎市の歴史を紹介している。松平家の胴丸具足がある。

- ・ **尼崎城の歴史概要**：大阪夏の陣の後、西国支配の拠点とするため大坂を直轄地にした江戸幕府は1617年譜代大名戸田氏鉄に大阪を西の守りとするため尼崎城の築城を命じた。

尼崎城関係年表

1617年：譜代大名戸田氏鉄が近江より尼崎へ5万石の大名として所替え。

1635年：戸田氏鉄は10万石で大垣へ所替え。青山幸成が掛川から尼崎へ所替え。

1751年：松平忠名が尼崎の藩主となる。

1873年：尼崎城の廃城が決まる。

2018年：天守閣が完成した。

「地元で恩返しをしたい」とミドリ電化創業者安保証（あぼあきら）氏が10億超とされる建設費用を拠出し市に寄贈。2018年

2019年3月オープン。

以上